

【活動報告】 B級遺産研究会現地視察

B級遺産研究会 中村裕大

B級遺産研究会は今回、島根県西部に残るインフラ施設及び遺構を視察しました。吉賀町椈谷の鈴の大谷森林鉄道は、昭和初期に建設された木材運搬を目的とした森林鉄道です。

地元の方々の案内により山道を歩き、山間部に残る軌道跡、RC造の橋脚群、集落跡等を視察しました。

また、益田索道は大正時代に建設された益田市匹見町道川～益田市大谷町間の木材運搬用索道です。現存する物はほとんど残っていないため、匹見上地区公民館で復元模型等の展示資料を見学しました。

向横田大橋は高津川にかかる昭和38年に建設された4径間連続鈹桁橋であり、建設時に後出する工夫を施し合成桁として架橋されています。

松崎技術士、松浦技術士の解説により、建設当時の設計・施工に思いを巡らせました。

○視察日

令和4年11月5日（土）10時～16時

○視察場所

- ・鈴の大谷森林鉄道（鹿足郡吉賀町椈谷）
- ・益田索道（益田市匹見町）
- ・向横田大橋（益田市横田町）

○参加者

9名



1. 鈴の大谷森林鉄道

鈴の大谷森林鉄道跡は鹿足郡吉賀町椈谷の国有林で伐採された木材を運搬する目的で、昭和4年から6年にかけて建設された延長約7kmの森林鉄道です。

鈴の大谷川に沿って建設され、この鉄道施設により木材の運搬能力を飛躍的に向上させ、昭和26年に廃止されるまで大いに活躍しました。

現地には、軌道、コンクリート製橋脚などの鉄道施設が残っています。また、石積堰堤や石張り水路など、現地の石材を加工して製作した施設もあり、当時の石材加工の技術力に驚かされました。

鉄道施設沿線には集落が形成されており、生活の跡も散見されましたが、昭和11年に見舞われた水害による慰霊碑が残っており、厳しい生活環境であったことが伺えました。



橋梁跡



橋脚群



石積堰堤



水害被害者慰霊碑

2. 益田索道

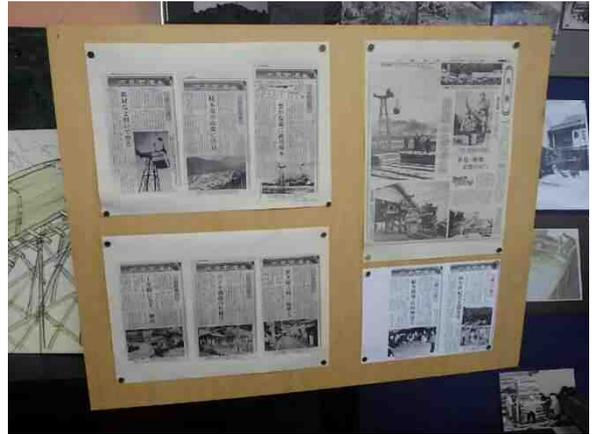
益田索道は益田市中心部から匹見町道川を結ぶ総延長約30kmの索道（リフト）であり、大正15年に完成し、昭和26年まで供用されていた貨物専用の索道です。

益田～匹見間には10の駅が整備され、益田市内から匹見に向けては日常生活物資、匹見からは益田市内へは木材、木炭等の搬出がされており、当時の匹見町は大きな賑わいを見せていました。

現在、現地に遺構等はほとんど残っておらず、匹見上公民館に模型展示や写真があり、当時の資料が多く残されています。



益田索道模型



展示資料

3. 向横田大橋

一般県道美濃地石見横田停車場線にあり、高津川に架橋する延長約158mの4径間連続合成桁橋です。

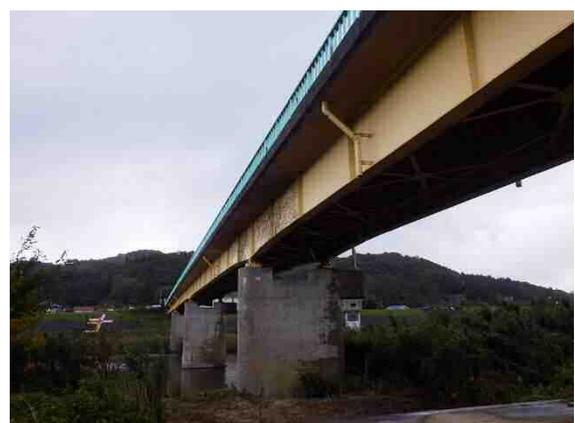
連続桁の中間支点部は、桁間への積載荷重により負の曲げモーメントが生じますが、施工時にプレストレスを与える工夫を施すことにより、このモーメントが相殺されることとなります。

このプレストレスを与える方法として、前荷重によるものと支点移動による方法がありますが、向横田大橋は水のうを前荷重として、支点を上下に移動させた専門書で紹介されています。

現地においてこの橋は代わり映えのしない印象を与えますが、先人の工夫とアイデアが施された構造物であり、多くの人に知ってもらいたい橋梁です。



向横田大橋 (全景)



向横田大橋 (下面より)

以上